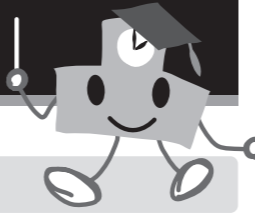


小学校の事例 西区 発寒南小学校

# 地域団体「エコタウンはっさむ」に参加。 幅広い活動で、体験的な環境学習を深める。

ゲストティーチャーを招き、講習を受けたり、実験したりを体感する。環境意識の育成だけでなく地域との連携も生まれる効果が。楽しみながら学ぶことで環境への関心を広げ、自主的な取組へ。



## はじめに 環境にやさしい地域づくりに参加

本校は発寒地区で環境活動を行っている地域団体「エコタウンはっさむ」に参加している。

「エコタウンはっさむ」とは、町内会・商店街・子ども会・小学校などが協力する実行委員会の通称で、事務局はまちづくりセンターに置かれている。

地域にやさしいまちづくりを目指し、地域一丸となって廃油の回収、リサイクル、環境に配慮したイベントや講習会を実施。本校では、子供たちが様々な体験をできること、地域との連携も深まることから、この団体への参加を決めた。



リングブル回収コーナー

## 内容 学年ごとに変化ある内容で学習

今年は4年生を特に「環境学習を強化する学年」とし、総合的な学習の時間を利用して活動。エコタウンはっさむの実行委員長である商店街の方をゲストティーチャーとして招き、廃油に関する講習を受けた。廃油は、排水と一緒に流してしまうと、排水管や下水道管内で石鹸と化合して固まり、詰まりの原因になるほか、下水処理場の機能も低下させてしまう。廃油をごみにしないために、廃油を集めてキャンドルにし、さらに商店街の灯りの替わりとしてアイスキャンドルにすることに取組んだ。



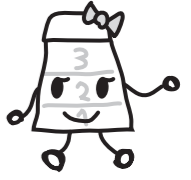
川の環境を守ることの大切さを知る学習

また、「川」「水」をテーマにした「中の川水生生物観察会」には、5～6年生から約10名が参加。札幌市が派遣をしている環境教育リーダーや札幌市環境局の方をゲストティーチャーとして招き、昔と今の川辺の環境の違いについて話を聞いたり、教わって実験したりしながら身近な川を観察、自然とふれあった。

実験では、pHやCODの検査を実施。また、ある特定の水生生物がいるか調べ、確認できたら水がきれいな証となり、安全性の判断基準となるという水質調査を行った。

ほかには、ピンポン玉を流し上流と下流ではその速さにどのような違いがあるかの実験などを実施。環境教育リーダーからは、水生生物の捕り方も教わった。

5年生は、滝野での宿泊学習の前に発寒川の探検を行った。上記の観察会での学習方法にならい、生息する生き物や水質について調査し、体験に基づく学習を行った。



## 効果 体験から関心へ

「エコタウンはっさむ」に参加し、地域とともに活動することで、子供たちは意欲をもって楽しみながら、環境についての学習を深めている。地域の川での体験学習から発展させ、長期休みの自由研究で川の水についてまとめた児童がいるなど、関心の広がりが見られる。また学校としても地域とのつながりが強化され、連携がスムーズになった。

エルプラザにも環境教育の先生（環境教育リーダー）がおり、ゲストティーチャーとしての活動もされているので、そういった方々への依頼も検討し、これからも有意義な取組をしていきたいと思っている。

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

**実施校からメッセージ**

本当の環境問題を子供たちに教えていくのはなかなか難しいことです。日常のこと、身近なことから子供たちが発見し、疑問をもち、さらに発展していく形が理想であると考えています。

平成23年度から総合的な学習の時間の時数は減ることもあり、必要な部分にしぼってカリキュラムを組んでいきたいと思っています。身近にできることから始めていきたいと思いますが、体験学習参加の場合は引率が必要なので、地域、家庭との連携をより高めていきたいと考えています。

各種リサイクルのための収集活動が環境を考えるきっかけになり、行動できるようになるのはとてもよいことですが、そもそもリングブルやキャップを出す（製造すること自体が環境を揺るがし壊していくことにつながっているかもしれません。また、ワクチン1本を途上国に贈ることができるのは、仲介団体や業者（本校の場合は地域にあるショッピングセンター）が費用負担をしているからできることです。本当はそこまで教えられるのが理想であり、今後の課題です。